

## 菅生大沢地区の森の再生を進める中で

菅生大沢地区の市有地では、協議会方式で森の再生が進められています。今回は、協議会参加メンバーの西多摩マウンテンバイク友の会が行っている大沢地区の整備についてお話しします。この会が行う整備は、親子での参加を可能とし、ノコギリやカマ、スコップなどの手道具を使い、森の中の低木類の伐採や気持ちいい落葉広葉樹の散策路作りなどを行っています。この会で手に負えない作業は、菅生でチェーンソーを使い、コナラ老齢林の再生に挑んでいる木こりグループが時折お手伝いしています。前回は、散策路の危険な場所に木道を作るため、間伐したヒノキから板を作り、木道の材料を提供していました。普段は、別の活動をしているグループですが、このように補完し連携して活動できる体制は、とても素晴らしいと思います。

この整備では、林床を明るくしながら、散策路を伸ばしていく方法をとっています。整備を始めた場所は、休憩できる平坦な場所がありましたが、整備が進むと斜面しかない現場となり、その近くに平坦な休憩場



所が必要となりました。「参加者がまともって休める場所としてウッドデッキがあるといい」と話がまとまり、以前木道用に作った板の余りでウッドデッキを作ることになりました。足りない材料の調達にはチェーンソーが必要となるため、木こりグループの出番となります。間伐したヒノキの切り株を土台にし、丸太で枠組みを作り、その上に板を張っていくという計画です。水平な面のない山の斜面で、太さもまちまちの丸太を使うため、皆で知恵を絞りながら、水平を探すこととなります。今回（9月）は、4人で半日使い、切り株とその上に乗せる枠組みの丸太の準備まで終わらせました。次回から慎重に水平面を作っていくこととなります。完成後は整備の合間に木陰のウッドデッキで、ゆっくりとお弁当を食べられるようになると思います。（杉野）